

戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学

－『昭和二十年度／研究班組織原簿』の分析を中心に－

吉 葉 恭 行

1. はじめに

前々号と前号において筆者は、戦時下の昭和18年度より実施された科学技術動員組織である学術研究会議による研究班組織の構築と研究者等に配当された科学研究費に関する資料を分析し、東北帝国大学における科学技術動員組織の形成過程やその組織のあり様、そして戦時研究について検討を試みてきた¹。

その結果、昭和18年度の科学研究動員下の重要研究課題の決定と「緊急科学研究費」の交付のされかたや、昭和19年度の東北帝国大学の研究者達が参加した研究班の班全体における位置づけや組織のあり様について、その一端を明らかにすることができた。

本稿では新たに入手することができた『昭和二十年度／研究班組織原簿』を材料に昭和20年度における東北帝国大学の研究者たちの学術研究会議研究班の班全体における位置づけや組織のあり様について検討を加えることにする。

なお、本文中で引用した資料や作成した表の原文はいずれも縦書きであるが、引用・作表の際には横書きにし、適宜、改行等を施している。また旧漢字は新漢字に改め新漢字にないものはそのまま表記し、仮名づかいは原文のままとし、漢数字はアラビア数字とした。欠損や判読不明な箇所は□□で、字数が不明な場合は〔 〕で示した。〔 〕は筆者による注記である。

2. 昭和20年度学術研究会議研究班の概観

2. 1. 研究班及び研究費の全体像

昭和20年度の学術研究会議研究班の全体像を概観するにあたり、留意しておきたいのは、研究班組織が大きく変更されたことである。1945（昭和20）年1月15日の勅令第16号により学術研究会議官制が改正され、①会員数の増員、②部の権限強化と研究班の部所属化、③自然科学のみの「科学研究動員委員会」の自然科学と人文科学ごとの「研究動員委員会」への改称、④特定重要研究課題に関する「特別委員会」設置の可能化、⑤帝国大学所在地ごとの支部の設置、⑥顧問・参与制の導入、など大きな組織変更がなされたのである²。このなかで、研究班にかかわる大きな変更点は、②の部の権限強化とそれにとまなう研究班の部への帰属の強化であった。そして学術研究会議の部構成がそれまでの7部構成から16部構成に変更され、それにとまなう研究班の番号も部門の下に位置づけられることになった。

つまり第1部（数学・物理学・天文学・地球物理学）、第2部（純正化学・応用化学・農芸化学・薬学）、第3部（地質学・鉱物学・地理学）、第4部（動物学・植物学・人類学）、第5部（応用物理・造兵学・機械工学）、第6部（鉱山学・冶金学・金属工学）、第7部（航空工学・船舶工学）、第8部（電気工学）、第9部（土木工学・建築学）、第10部（医学）、第11部（農学・水産学）、第12部（林学）、第13部（獣医学・畜産学）、第14部（法律学・政治学）、第15部（哲学・史学）、第16部（経済学）の部門別となり、部門ごとの班番号が付されるようになったのである。

この結果、昭和20年度の研究班は、194班に1班あたり約12.4名、計2411名の班員で構成され、

1班平均43,909円、総額8,518,300円の研究費が交付されることになった。単純に平均すると研究担当者1人あたりに約3,500円の研究費が交付されたことになる。前年の昭和19年度（193班に1班あたり約10.4名、計2011名、1班平均約65,000円、班員1人平均6,250円、総額12,562,900円）³と比較すると、総班員数が約20%増員され、その結果1班あたりの班員数が約2名増員されたことになる。その一方で、1班あたり研究費が約22,000円、班員1人あたりにすると約2,750円の研究費が削減されたことになる。継続研究が130班（67%）、新規研究が64班（33%）であった。

2. 2. 研究班班長の概観

つぎに昭和20年度学術研究会議研究班班長を所属機関別に概観しておきたい⁴。全194班のうち東京帝国大学が111班（昭和19年度は106班）と圧倒的多数を占めている。つぎが京都帝国大学の18班（同18班）、そして3番目が東北帝国大学の12班（同13班）である。その後には、北海道帝国大学5班（同5班）、名古屋帝国大学5班（同5班）大阪帝国大学5班（同7班）、九州帝国大学4班（5班）が続く。班長の所属機関をみる限りでは、前年度のバランスを踏襲している様に見える。

班長として記載されている東北帝国大学の研究者は、第1部第8班「特殊機具ノ幾何学的研究」の窪田忠彦（理学部）、第1部第9班「照準関係」の窪田忠彦（理学部）、第1部18班「特殊金属材料」の広根徳太郎（金属材料研究所）、第2部第8班「標準純物質製造」の富永斉（理学部）、第4部第5班「衛生昆虫」の朴澤三二（理学部）、第5部第11班「歯車量産法」の成瀬政男（工学部）、第5部第11班「流体軸受接手」の宮城音五郎（工学部）、第6部第4班「特殊製鉄法」の岩瀬慶三（金属材料研究所）、第6部第5班「特殊製鋼法」の濱住松二郎（工学部）、第6部第8班「特殊鋼」の石原寅次郎（金属材料研究所）、第10部第1班「航空医学」の加藤豊治郎（医学部）、第11部第20班「沿岸水族ノ増産並利用」の今井丈夫（農学研究所）の12名であった。班長として記載されている東北帝国大学の研究者を部局別に整理すると、理学部4名、工学部3名、金属材料研究所3名、医学部1名、農学研究所1名という構成である。このことから比較的理学部の研究者が多いことが看取される。なお、昭和19年度の分析の際にも行ったが、第6部第5班の濱住松二郎の所属は工学部から選鉱製錬研究所に修正しておきたい⁵。したがって、上記部局別構成の工学部3名が2名となり、新たに選鉱製錬研究所1名が加わることとなる。

また昭和19年度からの継続研究とされている班が、第1部の第8班、9班、18班、第2部第8班、第4部第5班、第5部第21班、第6部の第4班、5班、8班、第10部第1班の計10班で東北帝国大学の研究者が班長となっている研究の継続性が担保されている。新規に採択された研究は2班あるが、そのうちの1つは第5部第1班「歯車量産法」で、いま1つは第11部第20班「沿岸水族ノ増産並利用」である。後者は戦争末期の食糧困窮の状況が反映されたものであろう。

3. 昭和20年度学術研究会議研究班における東北帝国大学の特徴

3. 1. 部局別にみた「研究題目」と研究担当者

昭和20年度学術研究会議研究班に採択された東北帝国大学所属研究者の所属研究班と「研究題目」等のリストを本文末の表1に掲げた。これは新たに入手した資料である『昭和二十年度／研究班組織原簿』に記載されている学術研究会議研究班のリストから東北帝国大学に関連す

るもののみ抽出したものである⁶。表1に記載した研究題目数は138で、昭和19年度の116より約19%増加している。

つぎに部局別の内訳を昭和19年度と比較するために表2を作成した。この表を作成するにあたり、一部の研究担当者の所属部局に修正を加えた。前項における班長の所属部局の変更のほか、第2部第4班「噴進機薬剤」の研究題目「七〇-八五%甲液の〇-四〇Cに於ける比重粘度、表面張力及屈折率」の原龍三郎を非水溶液化学研究所の所属へと変更した⁷。

表2より、昭和19年度から昭和20年度へと、農学研究所の研究者が参加する研究題目数（5から23へ）と航空医学研究所の研究者が参加する研究題目数（1から12へ）、そして工学部の研究者が参加する研究題目数（13から22へ）が大きく増加していることが看取できよう。

表2 昭和20年度研究班部局別研究班研究題目件数

部局	昭和20年度	昭和19年度
理学部	43	44
医学部	13	14
工学部	22	13
電気通信研究所	0	1
金属材料研究所	20	28
農学研究所	23	5
選鉱製錬研究所	1	2
抗酸菌病研究所	1	2
科学計測研究所	2	5
航空医学研究所	12	1
高速力学研究所	0	0
非水溶液化学研究所	1	1
計	138	116

出所) 昭和20年度の研究題目件数は表2より算出、昭和19年度は拙著「戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学」『東北大学史料館紀要』第8号, p.31の表4より転載。

3. 2. 研究分野別にみられた研究班構成の特徴

つづいて、表1の記載内容をもとに、東北帝国大学の研究者がかかわった個別の研究題目について検討を加えることにする。研究分野ごとに研究班の構成に特徴があることが看取される。

たとえば、理学部数学教室の窪田忠彦が班長をつとめる第1部第8班では、個別の研究題目をもたずに、窪田以下5名の異なる研究機関の研究者が班名でもある「特殊機具ノ幾何学的研究」に取り組むという班構成をなしている。また班長の窪田に配分された研究費は、班全体の52.2%を占める4,800円であった。

そのほか窪田が班長をつとめる第9班の「照準関係」は無論のことであるが、第5班「等角写像」、第6班「特殊微分法的式」、第7班「航空数式ノ再検討」などの数学分野の研究班・研究題目も同様の班組織を構成していることが看取される。くわえて第6班「特殊微分法的式」では、理学部数学教室の藤原松三郎と泉信一の2名の研究者がそれぞれ研究担当者として名を連ねている。このように個別に研究題目を明示せずに同一班内に研究者が担当者として名を連ねるが、構成員は5名から8名程度と全体の平均値（12.4名）より低く、班長を除くと、配分された研究費は400円から2,000円程度とおおむね低額であることも特徴のひとつとしてあげられる。

第1部では、班員数や研究費の多寡の違いはあるが、第24班「望遠鏡ノ工学系及工学材料」や第33班「地球磁気及電気」、第34班「地磁気異常ニヨル異物探知」、第35班「物理探鉱法」などの物理学分野における研究班の構成のされかたも同様であった。

化学・薬学を専門とする第2部では、工学部の研究者が参加した研究班の場合は、例えば第4班「噴進機薬剤」では、27つの「研究題目」が記載され、それぞれに1名の担当者が記載されているという班構成がみられた。配分される研究費は班長と他の班員の差はさほどなく、おおむね前章で示した全体の平均値（3,500円）以上である。第7班「稀有元素」（21研究題目）、第12班「アルミニウム製造」（12研究題目）も同様で、班内の多くの研究題目では同一研究題目

内に他機関の研究者は含まれていないことが特徴としてあげられ、同一班内の各研究題目は担当者が個別の課題について研究を進めるという班構成をとっていることがわかる。

このことは、機械工学分野の研究者が参加した第5部の第11班「歯車量産法」、第20班「高速ターゼル機関」、第22班「航空機ノ管路網内ノ流量分配調整法」や冶金学・金属工学分野の研究者が参加した第6部の第2班「戦用非鉄金属製錬」、第3班「鉄鋳処理」、第4班「特殊製鉄法」、第5班「特殊製鋼法」、第7班「軽合金」、第10班「腐蝕防止」、第11班「表面処理」、航空工学・船舶工学分野の研究者が参加した第7部の第1班「高速空理力学」についても同様である。

第10部の医学部門は、第1班「航空医学」を皮切りに東北帝国大学の研究者が参加している研究班すべてが、工学分野同様に、研究班下の個別研究題目を1名の研究者が担当するという班構成が形成されていた。

第11部の農学・水産学部門では、理学部生物教室や生物学教室とのかかわりの強い農学研究所の研究者が参加する研究班において、ひとつの研究題目に他研究機関からの複数の研究者が配置されるという班構成がみられた。例えば第3班「農地、飛行場ノ構設、排水管理」（2研究題目に14名の研究担当者）や、第5班「農産繊維」（8研究題目に28名の研究担当者）、第11班「作物ノ疾病ト其防除」（7つの研究題目に22名の研究担当者）、第14班「馬鈴薯」（4つの研究題目に16名の研究担当者）などがあげられよう。

3. 3. 個別研究班の事例

つぎに、東北帝国大学の研究者が参加した個別の研究班について検討することにする。まずは東北帝国大学の研究者が班長として従事したいくつかの研究班に注目してみたい。

理学部数学教室の窪田忠彦が班長となっている第1部第8班、第9班については、先に触れたとおり、個別に研究題目を明示せずに同一班内に研究者が担当者として名を連ねるという班構成である。

金属材料研究所の研究者が班長となっている第1部第18班「特殊金属材料」（広根徳太郎）、第6部第4班「特殊製鉄法」（岩瀬慶三）、第6部第8班「特殊鋼」（石原寅次郎）などは、程度に差はあるものの、それぞれの研究班の下にある研究題目の多くを東北帝国大学の研究者たちが担当していることが看取された。とくに第1部第18班では全12中の半数である6つの研究題目において東北帝国大学金属材料研究所の研究者が担当となっている。第6部第8班も同様で、全8中4つの研究題目において東北帝国大学金属材料研究所の研究者が担当となっている。

この傾向は工学部の成瀬政男が班長となっている第5部第11班「歯車量産法」においてもみられ、全6中の5つの研究題目の担当を東北帝国大学工学部の研究者で占めている。残り1つの担当者も米澤工業専門学校の研究者であるので、東北地方限定の班構成であるといえよう。

理学部の研究者が班長となっている班では、第2部第8班「標準純物質製造」（富永斎）のように個別の研究題目を班員が担当する場合と、第4部第5班「衛生昆虫」（朴澤三二）のように個別の研究題目を明示せずに同一班内に研究者が担当者として名を連ねるという班構成をとる場合があるなど、それぞれの研究分野によると思われる特徴が見いだせた。

全研究班中最大規模の23万円の研究費が交付されている第10部第1班「航空医学」は、組織の規模も大きく全66の研究題目に66名の班員で構成されているため、班長の加藤豊治郎に配分されている研究費は総額の3.9%の9,000円とさほど高額ではない。しかし13の研究題目に12名の東

北帝国大学医学部あるいは航空医学研究所の研究者が参加しており、結果として東北帝国大学配分の研究費合計は、前年度に加藤に交付された研究費と同額の50,000円となる。

次に、配分された研究費が比較的高い研究題目についてみてゆく。もっとも高額であったのは第10部第11班「結核」の熊谷岱蔵の20,000円で、班長でないにもかかわらず班総額170,000円の11.8%を占めていた。2番目は第3部第1班「工業材料及原料ノ鉱物学的及岩石学的研究」の高橋勝利で班総額50,000円の28%を占める14,000円、3番目は第2部第7班「稀有元素」の青山新一で班総額55,000円の20%を占める11,000円、4番目は第1部第37班「凍結」の加藤愛雄と第2部第4班「噴進機薬劑」の原龍三郎の10,000円であった。原龍三郎の研究は新規であるため比較できないが、昭和19年度との比較で熊谷岱蔵(40,000円→20,000円)と高橋勝利(15,000円→14,000円)は交付される研究費は削減されている。一方で青山新一は5,000円から11,000円と倍増している。

つづいて複数の東北帝国大学の研究者が担当者として参加している研究班についてみる。すでに述べたが、とくに目立つのは金属材料系の研究で、第1部第18班「特殊金属材料」、第6部第4班「特殊製鉄法」、第6部第8班「特殊鋼」などがあげられる。そのほか既述した、第5部第11班「歯車量産法」、第10部第1班「航空医学」もこれにあたる。

4. おわりに

本稿では、新たに入手した資料をもとに、昭和20年度に東北帝国大学の研究者達が参加した学術研究会議研究班について、その研究組織の全容、そして東北帝国大学の研究者が参加した班組織の有り様について明らかにすることを試みた。

最初に概観したように、昭和20(1945)年1月の官制改正による学術研究会議組織変更にとともに、研究班の構成に変更があった。結果として班数は194班と大きく変わらなかったものの、班員数が2011名から2411名へと増員され、その一方で研究費総額が12,562,900円から8,518,300円へと減額された。これにとともに、東北帝国大学所属の班員も増員されたが、その増加率(約19%)は、全体のそれ(約20%)と同様であった。また各班員に交付された研究費も削減されたが、第2部第7班「稀有元素」の青山新一のように、班員によっては増額もあったことが明らかになった。

研究班の組織構成のあり様や交付された研究費の配分などにみられた特徴の違いは、学術研究会議の部門別というよりは、担当する研究者の研究分野といった属性によるところが大きく、このことは昭和19年度と同様であった。それぞれの研究分野に適した組織形態が検討されたことが、その要因の一つであると思われる。

東北帝国大学の研究者が班長となっている研究班では、その下の複数の研究題目の担当者が東北帝国大学の研究者で占められているという特徴も見出すことができた。

もっとも高額の研究費が交付されていた班は、昭和19年度同様、第83班「航空医学」であったが、研究費の配分のされかたに変更があり、班長の加藤豊治郎への交付額が減り、班のもとにある13の研究題目に参加した12名の東北帝国大学の他研究者に配分されていた。

また日本における金属材料研究の主要をなしていた東北帝国大学では、昭和19年度と比較して減少してはいるものの、20の研究題目が採択された金属材料研究所や選鉱製錬研究所に所属する研究者を中心に、それ以外の部局に所属する研究者も参加して、第6部に該当する分野、

すなわち採鉱から冶金、表面処理にいたるまでの金属材料系の研究が展開されたことが垣間見られた。しかし、これらの研究班の班構成をみる限り、研究分担者による個別研究、あるいは学内の共同研究として展開されたようにみられ、参加した研究者たちが全国的な共同研究の展開をどの程度意識していたものかは定かでない。

むしろ理学部数学教室の研究者が参加した第1部第1班「統計数学」の様な「基礎科学」や第11部第13班「甘藷」の様な地域性のある研究のほうが、他研究機関との共同研究が意識された組織が形成されていたとみる事が可能であろう。

以上のように、それぞれの研究分野や部局による研究班組織の特徴は明らかにされたものの、それらの研究組織が実際にどのように機能したのか明らかではない。それらを明らかにすることが今後の課題であろう。

〔付記〕 資料調査にご協力・ご助言いただき、また貴重な史料の写しを提供いただいた横浜国立大学経営学研究科教授青木洋氏にこの場を借りてお礼申し上げたい。本研究は、平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C）「帝国大学における研究者の知的基盤に関する研究」（課題番号：25381003、研究代表者：吉葉恭行）による研究成果の一部である。

注

- 1 拙著「戦時科学技術動員下の東北帝国大学—大久保準三文書を手掛かりとして—」『東北大学史料館紀要』第7号、2012、pp.13-33。拙著「戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学」『東北大学史料館紀要』第8号、2013、pp.25-40。
- 2 青木洋「学術研究会議の共同研究活動と科学動員の終局—戦中から戦後へ—」『科学技術史』第10号、2007、pp.1-40。
- 3 前掲拙著「戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学」、p.25。
- 4 青木、前掲論文。
- 5 前掲拙著「戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学」、p.29。
- 6 学術研究会議研究課『昭和二十年度／研究班組織原簿』日本学術会議所蔵。ただし、同上拙著の注12において述べたように、日本学術会議の協力を得て三度にわたる調査を実施したにもかかわらず資料を見つけることができなかったため、本稿執筆に際しては、横浜国立大学経営学部教授の青木洋氏所蔵の史料を提供いただいた。この場をかりてあらためて謝意を表しておきたい。
- 7 前掲拙著「戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学」、p.30。

表1 昭和20年度学術研究会議研究班と研究課題 (東北帝国大学関係)

部	研究班		研究費			研究担当者		備考			
	番号	研究班名	番号	研究題目	班総額	配分額	構成比		氏名	研究機関	
1	1	統計数学	3	統計原理	29,000	500	1.7%	稲葉栄次	九大	全4別研究題目	
						500	1.7%	伊藤清	名大		
						500	1.7%	河田敬義	東京文理大		
						500	1.7%	小河原正巳	中央气象台		
						500	1.7%	◎北川敏男	九大		
						300	1.0%	三留三千男	朝鮮総督府		
						400	1.4%	佐々木重夫	東北大理		
						300	1.0%	佐藤徳意	九大		
						10,800	2,400	22.2%	◎辻正次		東大理
									功力金次郎		北大理
									能代清		名大理
									小林善一		東京高師
									蟹谷來養		京大理
1,600	14.8%	岡田良知	東北大理								
16,000	4,800	30.0%	◎清水辰次郎	阪大理							
			藤原松三郎	東北大理							
			泉信一	東北大理							
			2,400	15.0%	松本敏之	京大理					
			1,600	10.0%	吉田耕作	名大理					
			2,400	15.0%	福原萬壽雄	九大					
			1,600	10.0%	宇野利雄	京城大理					
			600	3.8%	岡田良知	東北大理					
			9,600	3,800	39.6%	◎中野秀五郎	東大理				
						南雲道夫	阪大理				
1,600	16.7%	友近晋				京大理					
1,600	16.7%	能代清				名大理					
800	8.3%	小林善一				東京高師					
800	8.3%	岡田良知				東北大理					
400	4.2%	古屋茂				中央航研					
9,200	4,800	52.2%	◎窪田忠彦	東北大理							
			本部均	九大							
			800	8.7%	平川淳康	物理学校					
			800	8.7%	堀内義和	中島飛行					
			1,200	13.0%	森永覚太郎	広島文理大					
9,600	2,400	25.0%	◎窪田忠彦	東北大理							
			岩村寅之助	広島文理大							
			1,600	16.7%	寺阪英孝	阪大理					
			800	8.3%	矢野健太郎	東大理					
			800	8.3%	細川藤右エ門	広島高校					
			800	8.3%	中江龍夫	東大理					
			1,600	16.7%	河口高次	北大理					
46,000	2,000	4.3%	小島昌治	東文理大							
			蓮沼宏	東大							
			2,000	4.3%	大久保準三	東北大科研					
			-	-	東堯	東芝					
			1,000	2.2%	天野清	東工大					
			2,000	4.3%	関戸彌太郎	理研					
24,000	4,500	18.8%	田中務	東大理							
			2,000	8.3%	高橋胖	東北大理					
			2,000	8.3%	分島拓	浜松高工					
			-	-	高嶺健夫	理研					
48,000	1	廻析法ニヨル材料検査	-	-	向坂義太郎	浦和高					
			-	-	幸田成康	北大工					
			-	-	櫻田一郎	京大工					
			4,000	8.3%	澤田昌雄	阪大理					
			8,000	16.7%	志村繁隆	東大一工					
			-	-	田中晋輔	阪大工					
			-	-	仁田勇	阪大理					
			3,000	6.3%	西山善次	阪大産研					
			4,000	8.3%	林威	東北大理					
			4,000	8.3%	平田秀樹	京大化研					
-	-	三宅静雄	小林理研								

			-	-	吉田卯三郎	京大理	
		2,000	4.2%	-	吉田早苗	理研	
		-	-	-	渡邊俣之助	阪大理	
15 原子核ノ研究	2 ベルト起電機ノ建設並ニ建設セラレタルベルト起電機ヲ用フル原子核ソノ他ノ研究及ビソレ等結果ノ各種応用 4 ウランノ原子核分裂並ニソノ応用ニ関する研究	87,500	12,000	13.7%	三枝彦雄	東北大理	全6研究題目
			12,000	13.7%	篠原健一	九大理	
			-	-	田中正道	東芝電気総合研	
			-	-	荒勝文策	照明班	
			-	-	三枝彦雄	東大理	
			-	-	◎仁科芳雄	東北大理	
		500	0.6%	-	彦坂忠義	理研	
		2,000	2.3%	-	武藤俊之助	第二高校	
		500	0.6%	-	渡邊慧	九大理	
						東大二工	
16 基礎理論	1 物理的基礎理論	24,000	1,500	6.3%	湯川秀樹	京大理	全2研究題目
			1,500	6.3%	小平邦彦	東大理	
			1,500	6.3%	武藤俊之助	九大理	
			1,500	6.3%	仁科芳雄	理研	
			1,500	6.3%	山本英雄	旭ガラス研究所	
			1,500	6.3%	中林陸夫	東北大理	
			1,500	6.3%	坂田昌一	名大理	
			1,500	6.3%	荒木源太郎	京大工	
			1,500	6.3%	◎朝永振一郎	東京文理大	
			1,500	6.3%	渡邊慧	東大二工	
			1,500	6.3%	国井修二郎	九大理	
18 特殊金属材料	3 航空発動機用電極材料ノ研究 4 特殊耐熱鋼ノ研究 5 航空機関砲薬莖ノ熱処理ニ関スル研究 9 金属表面ノゲッタ作用並ニ代用ゲッタ金属ノ研究 10 航空機用金属材料ノ腐蝕及防蝕ニ対スル電子回析的研究 11 鋼材段階焼入法ノ熱伝導論的研究	45,000	5,000	11.1%	岡村俊彦	東北大科研	全13研究題目
			4,000	8.9%	竹内栄	東北大金研	
			1,500	3.3%	竹内栄	東北大金研	
			5,000	11.1%	◎広根徳太郎	東北大金研	
			1,500	3.3%	小川四郎	東北大金研	
			2,000	4.4%	片山龍成	東北大金研	
19 金属ノ材料的性質	3 金属ノ脆性クリープノ本性ノ低温並ニ高温ニ於ケル金属材料ノ疲労	48,000	6,000	12.5%	壽時富弥	東北大金研	全13研究題目
22 半導体	1 半導体強磁性物質ノ研究及ビソノ応用	32,000	4,000	12.5%	広根徳太郎	東北大金研	全6研究題目
			1,500	4.7%	有山兼孝	名大理	
			-	-	宮原将平	名大理	
24 望遠鏡ノ工学系及工学材料		26,000	6,000	23.1%	◎関口鯉吉	東京天文台	
			2,000	7.7%	藤岡由夫	東大文理大	
			2,000	7.7%	廣瀬秀雄	東京天文台	
			2,000	7.7%	高嶺俊夫	理研高嶺研究室	
			2,000	7.7%	木村正路	理研木村研究室	
			2,000	7.7%	木内正藏	東大	
			2,000	7.7%	高橋胖	東北大理	
			2,000	7.7%	日高高次	東大	
			2,000	7.7%	堀健夫	北大	
			2,000	7.7%	久保田廣	東大工	
			2,000	7.7%	日置隆一	理研光学器械研究室	
			-	-	丸山修二	東京光学器械会社	
25 太陽輻射放射線及応用	11 太陽ヨリ微粒子ノ地球大気ニ及ボス影響 12 太陽面現象ト電離層トノ関係	49,600	1,500	3.0%	松隈健彦	東北大理	全28研究題目
			1,000	2.0%	一柳壽一	東北大理	
26 天測航法	3 潜水天測法	17,000	3,000	17.6%	松隈健彦	東北大理	全3研究題目
			-	-	武藤晴彦	陸地測量部	
			-	-	奥田豊三	陸地測量部	
			-	-	秋吉利雄	水路部	
			-	-	塚本裕四郎	水路部	
			-	-	坪井忠二	東大理	
			-	-	関口鯉吉	東大理	
			-	-	辻光之助	東京天文台	
			-	-	中野三郎	東京天文台	

	5 電波兵器材料	10 紙コンデンサー用含溶剤の研究	150,000	5,000	3.3%	藤瀬新一郎	東北大理	全29研究題目
	7 稀有元素	4 一. タイリウム原鉱よりタリウムの抽出に関する基礎的研究／一. 稀有元素応用分析法／一. フェロジルコンの製造並に其の性質の研究 5 一. 伊豆半島産ウランウムの鉱石の化学的処理法／一. ジルコニウムの精密分析の研究／一. 岩手県下に於ける稀有元素(主としてコバルト・タングステン)資源の開発及其工業的採集法の研究／一. 硫化鉍焙焼煙塵よりセレンウムの採集並に精製	55,000	7,000	12.7%	石川総雄	東北大理	全21研究題目
	8 標準純物質製造	3 イソプロピル・ベンゼン	50,000	3,500	7.0%	野村傳	東北大理	全14研究題目
	12 アルミニウム製造	4 硫酸加里、鉄 7 合金溶融滓電解	50,000	4,500	9.0%	◎富永齊	東北大理	全12研究題目
				5,000	10.0%	伏屋義一郎	東北大工	班長、亀山直人(東大一工)は担当せず 全12研究題目
3	1 工業材料及原料ノ鉱物学的及岩石学的研究	2 高礬土質原料其他	50,000	14,000	28.0%	高橋勝利	東北大理	全8研究題目
	3 石油地質	3 秋田県桂坂背斜ノ地質精査 6 山形県北埃背斜ノ地質精査／山形県松嶺油田ノ地質準精査／内地油田有孔虫ノ研究	71,000	10,000	14.1%	高橋純一	東北大理	全14研究題目
	4 石炭地質	3 常磐炭田ノ地質構造 4 鮮満北支ニ於ケル含炭層ノ古植物ニヨル対比	50,000	5,000	10.0%	青木廉二郎	東北大理	全12研究題目
	5 鉱床ノ研究	9 東北地方ノ銅鉱床富鉱体ノ研究	50,000	5,000	10.0%	遠藤誠道	東北大理	全10研究題目
4	1 生物ニヨル船舶汚損蝕害防止	1 蝕害防止 2 汚損防止	55,000	3,000	5.5%	◎岡田要	東大理	
				5,000	9.1%	雨宮育作	東大農	
				6,000	10.9%	駒井卓	京大理	
				5,000	9.1%	内田亨	北大理	
				5,000	9.1%	岡田弥一郎	資源研	
				6,000	10.9%	今井丈夫	東北大農研	
				6,000	10.9%	椛山正雄	名大理	
				2,000	3.6%	瀧巖	広島文理大	
				3,000	5.5%	岡田要	東大理	
				6,000	10.9%	野村七祿	東北大理	
				2,000	3.6%	野沢秀四郎	東京文理大	
				6,000	10.9%	大島廣	九大農	
	2 倍数性トソノ応用		50,000	3,000	6.0%	小野知夫	第二高校	
				10,000	20.0%	木原均	京大農	
				3,000	6.0%	長尾正人	北大理	
				3,000	6.0%	野口弥吉	東大農	
				4,000	8.0%	水島宇三郎	東北大農研	
				3,000	6.0%	盛永俊太郎	九大農	
				5,000	10.0%	◎篠遠喜人	東大理	
				2,000	4.0%	島村環	名大理	
				4,000	8.0%	下斗朱直昌	広島文理大	
				3,000	6.0%	新家浪雄	京大理	
				4,000	8.0%	松浦一	北大理	
				2,000	4.0%	牧野佐二郎	北大理	
				2,000	4.0%	芳賀恣	北大低温研	
				2,000	4.0%	保井コノ	東京女高師	
	3 実験用小動物ノ増殖		25,000	3,000	12.0%	◎岡田要	東大理	
				4,000	16.0%	増井清	東大農	
				4,000	16.0%	竹脇潔	東大理	
				4,000	16.0%	平岩馨邦	広島文理大	
				3,000	12.0%	犬飼哲夫	北大理	

			上記と 一緒		牧野佐二郎 北大理	
			3,000 12.0%		丹下正治 九大農	
			2,000 8.0%		大淵直龍 資源研	
			2,000 8.0%		尾喜佳正 広島文理大	
4	生体調節機能ト ソノ応用		40,000	7,000 17.5%	◎合田得輔 東大理	
				7,000 17.5%	鎌田武雄 東大理	
				7,000 17.5%	宮地傳三郎 京大理	
				7,000 17.5%	元村勲 東北大理	
				5,000 12.5%	佐藤忠雄 名大理	
				4,000 10.0%	菊池健三 東大理	
				2,000 5.0%	木村雄吉 第二高校	
				1,000 2.5%	柳橋田為正 東京女高師	
5	衛生昆虫		35,000	5,000 14.3%	鏑木外岐雄 東大農	
				1,000 2.9%	鏑木外岐雄 東京科学博物館	
				3,500 10.0%	阿部康男 東大伝研	
				6,000 17.1%	◎林澤三二 東北大理	
				2,000 5.7%	内田亨 北大理	
				1,500 4.3%	内田登一 北大農	
				1,500 4.3%	江壽悌三 九大農	
				5,000 14.3%	宮地傳三郎 京大理	
				3,500 10.0%	木下周太 資源研	
				2,000 5.7%	佐藤井岐雄 広島文理大	
				2,000 5.7%	鳥生芳行 盛岡農林	
				2,000 5.7%	上野益三 京大理	
5	11 歯車量産法	1 多量生産ヲ目的トセル「ホブ」 ノ研究	50,000	10,000 20.0%	松山多賀一 東北大工	班長、成瀬政男 (東北大工) は 担当せず
		2 多量生産ヲ目的トセル歯車ノ 材料ニ関スル研究		8,000 16.0%	木内修一 東北大工	
		3 推進機変節用歯車ノ多量生産 ニ関スル研究		8,000 16.0%	岩名泰文 東北大工	
		4 多量生産ヲ目的トセル特殊歯 車工具ノ研究		8,000 16.0%	山田金雄 東北大工	
		5 鍛造歯車ノ研究		8,000 16.0%	明山正元 東北大工	
		6 転造歯車ノ研究		8,000 16.0%	石田喜助 米澤工専	
	20 高速ターゼル機 関	7 燃焼過給方法ノ実施	40,000	2,000 5.0%	前川治三郎 東北大工	全14研究題目
		8 酸素過給機関ノ研究		2,000 5.0%	前川治三郎 東北大工	
	21 流体軸受接手	1 理論及構造	27,000	3,000 11.1%	◎宮城音五郎 東北大工	
				3,000 11.1%	宮澤純 東大二工	
				3,000 11.1%	田伏敬三 京大工	
				3,000 11.1%	植松時雄 阪大工	
				3,000 11.1%	淵澤定敏 東北帝大工	
		2 実験?		3,000 11.1%	鬼頭史城 海軍省技研	
		3 試作研究 班長留保		3,000 11.1%	山崎卓郎 日立製作所	
				9,000 33.3%	宮城音五郎 東北帝大工	
	22 航空機ノ管路網 内ノ流量分配調 整法	7 航空機機体ノ管路網内ノ流量 分配状態調査	30,000	3,600 12.0%	- 東北大工	全8研究題目
6	2 戦用非鉄金属製 錬	3 ニッケル・コバルトノ製錬	30,000	3,500 11.7%	伊澤正宣 東北大工	全7研究題目
		4 稀元素金属ノ製錬		5,000 16.7%	山野健二 東北大工	
	3 鉄鋳処理	5 全石〔焙焼及焼結過程ニ於テ 鉄鋳中有実元素ノ駆除〕	30,000	3,000 10.0%	的場幸雄 東北大工	全10研究題目
	4 特殊製鉄法	2 カルボニール鉄製造	30,000	3,000 10.0%	岡村俊彦 東北大金研	全6研究題目
		6 高純鉄ノ製造		10,000 33.3%	◎岩瀬慶三 東北大金研	
	5 特殊製鋼法	1 砂鉄ヨリ特殊鋼ノ製造	30,000	7,000 23.3%	◎濱住松二郎 東北大工	全4研究題目
		2 特殊鋼ノ熔製		7,000 23.3%	的場幸雄 東北大工	
	7 軽合金	2 軽合金返り材ノ再生法ノデュ ラルミンノ性能向上	45,000	8,000 17.8%	大日方一司 東北大金研	班長、西村秀雄 (京大工) は担 当せず 全10研究題目
	8 特殊鋼	1 低合金強靱鋼ノ研究	55,000	6,000 10.9%	村上武次郎 東北大金研	全8研究題目
		4 強靱鋼ノ脆性		6,000 10.9%	◎石原寅次郎 東北大金研	
		5 代用高速度鋼ノ研究		10,000 18.2%	佐藤知雄 東北大金研	
		6 工具材料殊ニ高速度鋼ノ資源 対策		5,000 9.1%	大澤與美 東北大金研	
	9 鋳物	4 迅速鍛造曲軸ノ研究	35,000	4,500 12.9%	小出登雄吉 東北大工	全5研究題目

	10 腐蝕防止	1 無ニッケル耐熱鋼 2 耐蝕性低合金鋼 4 耐蝕性マグネシウム合金 8 化学工業用耐蝕材料	35,000	4,500 1,500 1,500 3,500	12.9% 4.3% 4.3% 10.0%	太田信之 村上武次郎 遠藤彦造 大日方一司 八田四郎次	山梨工專 東北大金研 東北大金研 東北大金研 東北大工	班長、氏家長明 (発明協会)は 担当せず 全16研究題目
	11 表面処理	3 金属ノセメンテーション	30,000	4,000	13.3%	加瀬勉	東北大金研	全9研究題目
7	1 高速空理力学 8 継電器	4 物体ノ速度ト衝撃波	50,000	4,160	8.3%	宮城音五郎	東北大工	全12研究題目
			50,000			◎大橋幹一 岡田成敏 山下英男 鳳誠三郎 島津保次郎 和島藤助 執行 岩根 茅 誠司 岡田幸雄 後藤良亮	電気試験所 電気試験所 東大一工 東大一工 住友通信工業 日立製作所 東京芝浦電気 東大理 東北大工 神戸製鋼所山田 工場	
10	1 航空医学	9 遠心力ノ作用ニヨル血行障害 並ニ具体策 10 高々度加速度並ビニ急上急降 下トノ生態ニ及ホス影響ニ対 スル自律神経系ノ役割 11 低圧下ノ反応時間ニヨル航空 適性 12 低圧並ニ酸素欠乏状態ニ対ス ル内分泌系作用 13 加速度ノ生体ニ及ホス影響 14 加速度並ニ低圧ノ聴器、鼻腔 ニ及ホス影響 15 低圧及ビ遠心力作用ニヨル肝 臓機能ノ変化 16 低圧及ビ酸素欠乏ニヨル血液 ノ物理化学的性状ノ変化 17 低圧ノ視器機能ニ及ホス影響 (附、遠心力作用ニヨル視器ノ 器質的变化) 18 遊離細胞ノ低圧下ニ於ケル形 態並ニ生態ノ観察(新) 19 低圧下視器興奮性ノ変化並ニ 其応用 20 低圧並ニ加速度作用下ニ於ケ ル精細電気現象 21 低圧並ニ加速度作用下ニ於ケ ル出血並ニ対策	230,000	9,000 6,000 2,000 4,000 3,000 3,000 3,000 7,000 3,000 3,000 2,000 2,000	3.9% 2.6% 0.9% 1.7% 1.3% 1.3% 1.3% 3.0% 1.3% 1.3% 0.9% 0.9%	◎加藤豊治郎 佐藤熙 大脇義一 佐竹安太郎 那須省三郎 立木豊 中澤房吉 松田幸次郎 林雄造 吉田富三 本川弘一 本川弘一/ 桂重次 桂重次	東北大航研 東北大航研 東北大航研 東北大医 東北大航研 東北大航研 東北大航研 東北大航研 東北大航研 東北大航研 東北大航研 東北大航研	全66研究題目
	5 熱帯及寒地栄養	3 寒地栄養特ニ寒冷ノ糖源生成 ニ対スルビタミンノ影響	45,000	3,000	6.7%	黒川利雄	東北大医	全15研究題目
	6 体力	8 体力増強	72,000	2,000	2.8%	近藤正二	東北大医	全30研究題目
	7 視力増強(註、 題目トシテ(1) ハ近視、(2)ハ 昼間視力増強、 (3)ハ夜間視力 増強、(4)ハ眩 暈ヲ意味ス)	4 (1)	56,000	2,000	3.6%	林雄造	東北大医	全16研究題目
	8 乳幼児母性保健	5 本邦ノ母乳 6 妊娠中毒症	95,000	4,000 4,000	4.2% 4.2%	佐藤彰 篠田紘	東北大医 東北大医	全25研究題目
	9 輸血代用法	5 輸血其他ノ栄養問題	79,000	7,000	8.9%	篠田紘	東北大医	全14研究題目
	10 放射線	4 間接撮影法	71,000	7,000	9.9%	古賀良彦	東北大医	全15研究題目
	11 結核	11 結核ノ総合的研究	170,000	20,000	11.8%	熊谷岱藏	抗研及東北大医	全59研究題目
	13 免疫	11 菌体成分ノ化学的免疫学的研 究ト其応用 12 免疫性動脈内膜細胞毒素	110,000	5,000 4,000	4.5% 3.6%	黒屋正彦 村上次男	東北大医 東北大医	全30研究題目
	14 疲労	5 副腎ト疲労トノ関係 6 疲労ニヨル脳及肝ノ変化ト回 復	94,000	2,000 2,000	2.1% 2.1%	佐竹安太郎 丸井清恭	東北大医 東北大医	全35研究題目

	17 脳波	5 脳波ノ基礎的並ニ臨床的研究	38,000	5,000	13.2%	本川弘一 / 桂重次	東北大医	全10研究題目
	20 体質	6 体質医学 (班長ヨリ出題ハ「体型ト運動機能疾病及疲労トノ関係」)	53,000	4,000	7.5%	大里俊吾	東北大医	全23研究題目
	21 温泉	2 温泉科学ノ綜合研究 (十九年度ハ伊藤實二、〇〇〇)	38,000	6,000	15.8%	大里俊吾 外3名	東北大医	全12研究題目
11	3 農地、飛行場ノ構設、排水管理	2 植栽	36,000	1,500	4.2%	丹羽鼎三	東大農	全2研究題目
				1,300	3.6%	前川徳次郎	北大農	
				800	2.2%	森歙之助	千葉農專	
				800	2.2%	吉田良治	東北農研	
	4 特殊水産物ノ増殖	3 餌料、浮遊生物	48,000	4,000	8.3%	杉江吉行	東大農	全3研究題目
				4,000	8.3%	野村七祿	東北大理	
				3,000	6.3%	松平近義	九大農	
				3,000	6.3%	山本時男	名大農	
				4,000	8.3%	今井丈夫	東北農研	
	5 農産繊維	5 雑繊維	48,000	2,000	4.2%	田原正人	東北大理	全8研究題目
				1,000	2.1%	西川五郎	東大農	
				1,000	2.1%	松山三樹男	岐阜農專	
				1,000	2.1%	佐竹義備	科学博物	
				1,000	2.1%	芦田讓治	京大理	
				1,000	2.1%	手島周太郎	東北大農研	
	6 地力ノ維持推進	4 微量要素ノ応用	45,000	500	1.1%	桑野代助	宇都宮農專	全4研究題目
				500	1.1%	吉江修司	千葉農專	
				500	1.1%	松本通夫	東京農專	
				500	1.1%	南禮蔵	東京農大	
				500	1.1%	須田圭二	上田織專	
				500	1.1%	小坂二郎	盛岡農專	
				9,000	20.0%	大杉繁	京大農	
				9,000	20.0%	田町以信男	北大農	
				9,000	20.0%	川村一水	九大農	
				3,000	6.7%	木村次郎	東北農研	
				2,000	4.4%	川口桂三郎	大原農研	
	7 陸内水面ノ利用	2 魚苗、稚魚	23,000	1,000	4.3%	◎雨宮育作	東大農	全4研究題目
				1,000	4.3%	元田茂	北大農	
				1,000	4.3%	今井丈夫	東北農研	
				1,000	4.3%	渡辺宗重	函館水産專	
				1,000	4.3%	内田憲太郎	九大農	
				1,000	4.3%	川村智次郎	京大理	
	8 農林昆虫	5 稲葉潜蠅ノ防除	50,000	2,000	4.0%	加藤陸奥雄	東北農研	全14研究題目
	9 戦時保健食糧	27 澱粉資源植物調査研究	89,000	1,000	1.1%	岡田要之助	東北農研	全29研究題目
		28 蛋白資源食糧調査研究		1,000	1.1%	神立誠	東北農研	
	11 作物ノ疾病ト其防除	7 馬鈴薯等ノ「バイラス」病	53,000	2,500	4.7%	山口弥輔	東北大理	全7研究題目
				3,000	5.7%	明日山秀文	東大農	
				2,500	4.7%	福土貞吉	北大農	
				2,500	4.7%	山藤一雄	九大農	
				1,700	3.2%	富樫浩吾	盛岡農專	
				1,300	2.5%	石森直人	東京農教專	
				1,700	3.2%	日野登米雄	宮崎農專	
				1,400	2.6%	岩田吉人	三重農專	
				4,000	7.5%	栃内吉彦	北大農	
				2,500	4.7%	赤井重恭	京大農	
				1,700	3.2%	今開六也	東京科博	
	12 海藻資源	2 繁殖整理	45,000	3,000	6.7%	国枝博	東大農	全5研究題目
				3,000	6.7%	山田幸雄	北大理	
				3,000	6.7%	田原正人	東北理	
				2,000	4.4%	瀬川宗吉	九大農	
				2,000	4.4%	神田千代一	函館水專	
				1,500	3.3%	高松正彦	資源研	
	13 甘藷	1 栽培 (育苗ヲ含ム)	43,000	6,000	14.0%	佐々木喬	東大農	全5研究題目
				3,000	7.0%	◎榎本中衛	京大農	
				4,000	9.3%	盛永俊太郎	九大農	
				2,000	4.7%	山本健吾	東北大農研	
				5,000	11.6%	高橋隆道	三重農專	
				3,000	7.0%	谷口熊之助	鹿児島農專	
				2,000	4.7%	遠山正映	鳥取農專	

	2 生理、生態		2,000	4.7%	芦田譲治	京大理	
			2,000	4.7%	吉井義次	東北大理	
			1,000	2.3%	小清水卓二	奈良女高師	
14 馬鈴薯	1 種薯	34,000	-	-	◎手島寅雄	北大農	全4研究題目
			3,000	8.8%	小坂博	盛岡農専	
			2,000	5.9%	山口弥輔	東北大理	
			2,000	5.9%	森本勇	宇都宮農専	
			-	-	佐々木喬	京大農	
	3 貯蔵、腐敗防止		2,000	5.9%	島善鄰	北大農	
			3,000	8.8%	吉井義次	東北大理	
			2,000	5.9%	長戸一雄	東大農	
	4 ホルモン処理		4,000	11.8%	野口弥吉	東大農	
			2,000	5.9%	山本健吾	東北大農研	
			-	-	島善鄰	北大農	
17 雑穀	2 農道、畦畔、其他未利用地ニ於ケル大豆ノ増産	30,000	3,000	10.0%	山本健吾	東北大農研	全7研究題目
	3 寒冷地帯ニ於ケル燕麦、ライ麦ノ増産		3,000	10.0%	吉田重治	東北大農研	
	4 雑穀類ノ食糧及飼料トシテノ利用増進		3,000	10.0%	手島周太郎	東北大農研	
18 蔬菜	1 多産性品種ノ選出	25,000	4,500	18.0%	並河功	京大農	全4研究題目
			2,000	8.0%	伊東秀夫	東京農専	
			1,500	6.0%	水島宇三郎	東北大農研	
19 水田裏作	3 東北地方ノ各地域ニ於ケル水田二毛作ノ輪栽型式	44,000	8,000	18.2%	山本健吾	東北大農研	全9研究題目
	4 水田裏作ニ於ケル地方の消長並堆肥ノ施用法		3,000	6.8%	木村次郎	東北大農研	
	5 二毛水田ノ土壤学的研究		3,000	6.8%	青峯重範	東北大農研	
	6 水田二毛作ニ依ル青刈飼料ノ生産		4,000	9.1%	手島周太郎	東北大農研	
20 沿岸水族ノ増産並利用	1 貝類	37,000	3,000	8.1%	雨宮育作	東大農	
			3,000	8.1%	犬飼哲夫	北大農	
			3,000	8.1%	西岡丑三	東北大農研	
			3,000	8.1%	瀧巖	広島文理大	
			3,000	8.1%	高槻俊一	東京文理大	
			3,000	8.1%	村山三郎	函館水産専	
			3,000	8.1%	大島泰雄	東大農	
			3,000	8.1%	◎今井丈夫	東北大農研	
			3,000	8.1%	岡田弥一郎	資源研	
	2 甲殻類		2,000	5.4%	内田恵太郎	九大農	
			2,000	5.4%	今井丈夫	東北大農研	
			2,000	5.4%	佐藤光雄	函館水産専	
			2,000	5.4%	宮地傳三郎	京大理	
			2,000	5.4%	野村七祿	東北大理	
	3 其他						

出所) 学術研究会議研究課『昭和二十年度ノ研究班組織原簿』日本学術会議所蔵より作成

注1) 東北帝国大学の研究者が関連する研究班のみ抜粋した。

注2) 「研究機関」は資料記載のままで表記した。

注3) 研究班内に個別の研究題目がある場合は、「研究題目」欄に記載した。

注4) 東北帝国大学の研究者が参加していない「研究題目」は省略し、備考欄に全研究題目数のみ記載した。

注5) 東北帝国大学所属の研究者の「氏名」と「研究機関」、研究費の「配分額」・「構成比」は太字にした。

注6) 班長には◎を付してある。